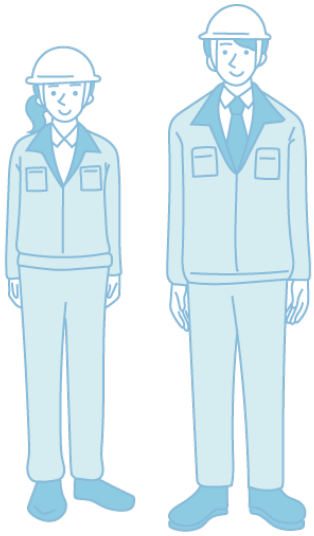
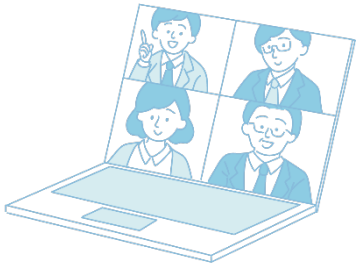
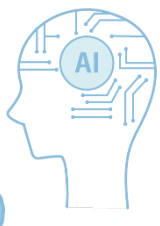




生産性向上支援訓練活用事例集 VOL.8



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
Japan Organization for Employment of the Elderly, Persons with Disabilities and Job Seekers

生産性向上支援訓練とは？

生産管理、IoT・クラウド活用、組織マネジメント、マーケティング、データ活用など、あらゆる産業分野の生産性向上に効果的なカリキュラムにより、中小企業等が生産性を向上させるために必要な知識・スキルを習得するための訓練です。

70歳までの就業機会の確保に資する中高年齢層向けの訓練コース（ミドルシニアコース）や、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に資する人材の育成を支援する訓練コース（DX対応コース）も実施しています。

生産性向上支援訓練では、中小企業等が抱える課題やご要望に応じてカリキュラムをカスタマイズするオーダーコースと、地域の中小企業等に共通する課題に対応したオープンコースを、専門的知見を有する民間機関等に委託して実施します。

訓練実施形式

集合形式
オンライン（同時双方向通信）形式

訓練実施場所

企業の自社会議室　等

訓練時間数

6 ～ 30時間
（「IT業務改善」は４～30時間）

受講料（1人あたり・税込）

3,300 ～ 6,600円
（「IT業務改善」は2,200～4,400円）
※訓練時間により変動

訓練受講までの流れ（オーダーコースの場合）

課題や方策の整理
・担当者が企業を訪問し、人材育成に関する課題や方策を整理します。

訓練コースのコーディネート
・相談内容を踏まえて、課題やニーズに応じた訓練コースを提案します。
（コース一覧は２ページをご覧ください）

・現場の課題を発見し、改善する方法を学びたい。
・RPAを活用して業務を自動化したい。
・テレワークを導入して業務を効率化したい。

目的・分野：A　生産・業務プロセスの改善
生産管理、品質保証・管理、流通・物流、バックオフィス

・従業員の仕事の効率化を促進したい。
・リスクを低減させる方法を学びたい。
・ベテラン従業員の技術を後輩に継承させたい。

目的・分野：B　横断的課題
組織マネジメント、生涯キャリア形成

・顧客満足度の向上を図りたい。
・消費者の動向を営業に活用したい。
・インターネットを活用して販売促進を図りたい。

目的・分野：C　売上げ増加
営業・販売、マーケティング、企画・価格、プロモーション

・データ集計の作業を効率化したい。
・マクロを使って定型業務を自動化したい。
・集客につながるHPを作成したい。

目的・分野：D　IT業務改善
ネットワーク、データ活用、情報発信、倫理・セキュリティ

訓練受講
・所定の期日までに受講料の支払い等の手続を行い、訓練を受講してください。

※相談内容によっては、少人数からでも受講できるオープンコースのご利用を提案する場合があります。

COURSES ～ 生産性向上支援訓練 選べる131コース ～

A　生産・業務プロセスの改善

048 ものづくりの仕事のしくみと生産性向上
001 生産性分析と向上
002 生産現場の問題解決
003 生産性向上のための課題とラインバランシング
004 生産計画と工程管理
005 サービス業におけるＩＥ活用
129 製造分野におけるＤＸ推進
006 原価管理とコストダウン
007 在庫管理システムの導入
008 購買・仕入れのコスト削減
009 ＰＯＳシステムの活用技術
010 品質管理基本
011 品質管理実践
053 サービスマネジメントによる品質改善と向上
015 ３ＰＬとＳＣＭ
016 物流のＩＴ化
013 流通システム設計
014 物流システム設計
012 卸売業・サービス業の販売戦略
017 ＳＣＭの現状と将来展望
018 クラウド活用入門
019 ＩｏＴ活用によるビジネス展開
020 クラウドを活用したシステム導入
021 ＩｏＴ導入に係る情報セキュリティ
054 クラウドを活用した情報共有能力の拡充
087 導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用
083 テレワークを活用した業務効率化
088 テレワーク活用
130 経理業務の効率化につながるＤＸの実践
056 ＩＴツールを活用した業務改善
089 データ活用で進める業務連携
090 失敗しない社内システム導入
091 企業内でＩＴ活用を推進するために必要な技術理解
092 企業内でＩＴ活用を推進するために必要なマネジメント
117 ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の導入
118 ベンダーマネジメント力の向上
093 ＩＴ新技術による業務改善
094 ＡＩ（人工知能）活用
095 ビッグデータ活用
055 ＲＰＡを活用した業務効率化・コスト削減
096 ＲＰＡ活用
119 ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進
120 データサイエンス入門
131 ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）の推進
037 企業価値を上げるための財務管理

B　横断的課題

022 ＩｏＴを活用したビジネスモデル
084 ダイバーシティ・マネジメントの推進
121 ビジネスとＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の融合
038 事故をなくす安全衛生活動
023 個人情報保護と情報管理
064 高年齢労働者のための安心・安全な職場環境の構築
039 リスクマネジメントによる損失防止対策
059 災害時のリスク管理と事業継続計画
040 ｅビジネスにおけるリーガルリスク
057 ネット炎上時のトラブル対応
024 ナレッジマネジメント
025 知的財産権トラブルへの対応（１）
026 知的財産権トラブルへの対応（２）
058 現場社員のための組織行動力向上
041 業務効率向上のための時間管理
062 顧客満足度向上のための組織マネジメント
060 企画力向上のための論理的思考法
042 成果を上げる業務改善
043 組織力強化のための管理
061 職場のリーダーに求められる統率力の向上
051 管理者のための問題解決力向上
044 プロジェクト管理技法の向上
052 プロジェクトマネジメントにおけるリスク管理
065 継続雇用者のキャリア形成と管理者の役割
085 従業員満足度の向上
086 ストレスチェック制度を用いた職場環境改善と生産性向上
097 ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
122 テレワーク業務における労務管理
126 ＤＸ人材育成の進め方
127 物流現場のリーダー育成
128 ファシリテーションを活用した合意形成の効率化
066 中堅・ベテラン従業員のためのキャリア形成
067 チーム力の強化と中堅・ベテラン従業員の役割
068 後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割
069 中堅・ベテラン従業員による組織の活性化のための相談技法
070 ＳＮＳを活用した相談・助言・指導
071 フォロワーシップによる組織力の向上
072 経験を活かした職場の安全確保（未然防止編）
073 経験を活かした職場の安全確保（対策編）
074 クラウドを活用したノウハウの蓄積と共有
075 職業能力の整理とノウハウの継承
076 職業能力の体系化と人材育成の進め方
077 経験に基づく営業活動の見える化と継承
078 効果的なＯＪＴを実施するための指導法
079 ノウハウの継承のための研修講師の育成
080 作業手順の作成によるノウハウの継承
081 若手従業員に気づきを与える安全衛生活動（実施編）
082 若手従業員に気づきを与える安全衛生活動（点検編）

C　売上げ増加

049 提案型営業手法
063 ビジネス現場における交渉力
050 提案型営業実践
027 マーケティング志向の営業活動の分析と改善
028 統計データ解析とコンセプトメイキング
123 オンライン営業技術
029 顧客分析手法
045 顧客満足向上のためのＣＳ調査とデータ分析
030 実務に基づくマーケティング入門
031 マーケティング戦略概論
032 マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
033 マーケット情報とマーケティング計画（販売編）
046 インターネットマーケティングの活用
034 製品・市場戦略
035 新サービス・商品開発の基本プロセス
036 プロモーションとチャネル戦略
047 チャンスをつかむインターネットビジネス

D　IT業務改善

098 ワイヤレス環境に必要となる無線LANとセキュリティ
099 社内ネットワークに役立つ管理手法
100 表計算ソフトを活用した業務改善
101 業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
102 表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化
103 効率よく分析するためのデータ集計
104 ピボットテーブルを活用したデータ分析
105 品質管理に役立つグラフ活用
106 表計算ソフトを活用した統計データ解析
107 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
108 データベースを活用したデータ処理（基本編）
109 データベースを活用したデータ処理（応用編）
110 データベースを活用した高度なデータ処理
111 業務効率を向上させるワープロソフト活用
112 相手に伝わるプレゼン資料作成
113 集客につなげるホームページ作成
114 ＳＮＳを活用した情報発信
124 オンラインプレゼンテーション技術
115 脅威情報とセキュリティ対策
116 情報漏えいの原因と対応・対策
125 テレワークに対応したセキュリティ対策

CONTENTS

A　生産・業務プロセスの改善

1. 株式会社岡田建具製作所 様 （北海道） 事業内容：木製建具・造作家具の製作・施工 ・・・P5
096「RPA活用」 DX 利用

2. 三光化成株式会社 第二事業部 様 （岩手） 事業内容：工業用精密プラスチック部品・金型の設計ほか ・・・P6
094「AI（人工知能）活用」 DX
095「ビッグデータ活用」 DX
117「DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入」 DX
119「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」 DX 利用

3. 未来工業株式会社 山形工場 様 （山形）事業内容：電設資材・給排水設備・OAフロアの製造及び販売 ・・・P7
055「RPAを活用した業務効率化・コスト削減」 DX 利用

4. 株式会社ビッドシステム 様 （群馬） 事業内容：コンピュータソフトウェアの開発及び販売 ・・・P8
119「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」 DX
126「DX人材育成の進め方」 DX 利用

5. フォルム株式会社 様 （神奈川） 事業内容：自動車部品の製造 ・・・P9
118「ベンダーマネジメント力の向上」 DX 利用

6. 株式会社百十四システムサービス 様 （香川） 事業内容：ソフトウェア開発に関する受託業務ほか ・・・P10
117「DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入」 DX
119「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」 DX 利用

7. FRT株式会社 様 （沖縄） 事業内容：インターネットデータセンター事業、コンタクトセンター事業 ・・・P11
020「クラウドを活用したシステム導入」 DX
056「ITツールを活用した業務改善」 DX 利用

B　横断的課題

8. オイレス西日本販売株式会社 様 （関西） 事業内容：各種ベアリング、伝導機器・装置の販売等 ・・・P12
121「ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合」 DX 利用

9. ホシデン九州株式会社 様 （福岡） 事業内容：小型マイクロホンの開発及び製造 ・・・P13
068「後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割」 ミドルシニア 利用

DX ・・・DX対応コース

ミドルシニア ・・・ミドルシニアコース

C　売上げ増加

10. 丸茂工業株式会社 様　（中部）事業内容：輸送用機械器具製造（熱間鍛造品全般）　・・・P14

049「提案型営業手法」　利用

D　ＩＴ業務改善

11. 日本光研島根株式会社 様　（島根）事業内容：パール顔料製造　・・・P15

109「データベースを活用したデータ処理（応用編）」 DX 利用

A～Dの中から複数コースを受講

12. 株式会社第一メカテック 様（埼玉）事業内容：サービス業　・・・P16

A　生産・業務プロセスの改善

058「現場社員のための組織行動力向上」

B　横断的課題

093「IT新技術による業務改善」 DX

096「RPA活用」 DX

119「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」 DX 利用

13. 株式会社中温 様（愛媛）　事業内容：農産物加工、瓶詰・缶詰・袋詰等製造　・・・P17

B　横断的課題

038「事故をなくす安全衛生活動」

D　IT業務改善

104「ピボットテーブルを活用したデータ分析」 DX

124「オンラインプレゼンテーション技術」 DX 利用

本事例の作成にご協力いただきました
事業主の皆様に、厚く御礼申し上げます。

1．株式会社岡田建具製作所　様

所在地　　北海道恵庭市
従業員数　28名
事業内容　木製建具・造作家具の製作・施工

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・RPA導入の具体的なイメージが持てていない。
・事務部門にRPAを導入して業務の効率化を図りたい。

RPAを業務に活用するイメージを掴む！

生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

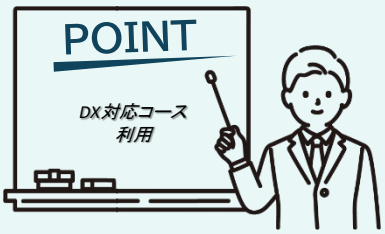
・RPAソフトを実際に体験したことで、業務に活用するイメージが掴め、導入に向けて動き始めた。

提案内容

・他社の実用例等を学ぶにとどまらず、RPAソフトを実際に体験して自社でどのように活用できるのかをイメージできるような訓練を提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「096　RPA活用」
実施時期 ：令和５年８月
受講者数 ：９人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社は創業50年超の木製建具製造会社です。製造部門（工場）には最先端の機械を導入し、カイゼン活動を実施する等の効率化を進めていますが、事務部門の効率化が課題となっています。

一つの解決方法としてRPAに着目し、役員が外部セミナーに参加したところ、その有効性は理解できたものの、自社の具体的な業務への活用をイメージできずに困っていました。そこで、以前よりお世話になっているポリテクセンター北海道に相談したところ、実際にPCを使用してRPAの操作を学ぶ訓練を利用することとなりました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

これまでに利用した講義形式のセミナーとは異なり、実際にPCを用いて業務プロセス自動化が体験できたため、自社への具体的な導入がイメージできたようです。

また、管理者・担当者が受講したことにより、各部署各立場での導入効果や課題を共通認識として持つこともできました。受講者アンケートでも満足度は高く、「業務に役立てることができる」ことがその理由だというのも大変頼もしく思っています。

今後は、各部署が自らの業務に適したRPAの活用に取り組み、全社的に業務効率化を進めていくことを期待しています。また、必要に応じて未受講の社員に対しても訓練を実施したいと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

当社では、製造部門（工場）と同様に事務部門でもカイゼン活動に取り組んでいますが、何から着手すればよいかを明確にできず、また、活動の成果を実感することも困難でした。

今回の訓練でRPA活用の対象となる非効率業務の抽出方法や業務効率化のためのRPAの具体的活用方法を習得でき、さらに、実際にPCを使って教えていただいたので、RPAを活用したカイゼン活動に取り組む際のハードルがかなり低くなりました。

RPA活用による業務効率化を実施した場合の成果を思い浮かべることができるようになったことは、積極的にカイゼン活動を行うための動機づけとなりました。

これからは、RPAをツールとして、総務の業務だけではなく製造及び営業のバックオフィス業務の効率化をサポートしていこうと思っています。

2．三光化成株式会社 第二事業部　様

所在地　　岩手県一関市
従業員数　第二事業部　約420名
事業内容　工業用精密プラスチック部品・金型の設計・製造・販売

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・現場の若手と各工場長・幹部との間でDXの知識や認識に差がある。
・DXの基本知識から応用知識までを共有して、社内DXの強化を進めたい。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

DXの知識を学び社員が主体的に考えられる力を養う！

訓練後の成果

・DXに対しての理解が深まり、各部門での取組が促進・具体化（ペーパーレスの推進、生産・品質管理の効率化等）されてきた。

提案内容

・事業所が抱えている問題を題材とし、 DX推進・運用から実践までを含めたカリキュラムを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「094　AI(人工知能)活用」「095　ビッグデータ活用」
　　「117　DX （デジタルトランスフォーメーション）の導入」
　　「119　DX （デジタルトランスフォーメーション）の推進」
実施時期 ： 令和５年１～３月
受講者数 ： 各14人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

　今回の訓練は製造業のDX展開事例として、各工場長、各工場幹部、次世代推進メンバーを対象とし、経営課題の可視化を目的として企画しました。
　また、基本知識習得と改善内容を共有することにより改革・改善スピードを上げることも目的としました。
　訓練を利用することで、各受講者が、どのような業務改善ができるか、知識をどのように活用できるか、自主的に考え、自主的に行動する意識の醸成のほか、DXを導入することで、学びの場を提供し改善意欲とスキルアップを実践すると共に、モチベーションの高い社員の育成につなげたいと期待しました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

　DXに対しての理解が深まり、各部門での取組が促進・具体化されてきています。例として社員によるシステム構築とシステム内製化、ペーパーレスの推進、生産管理・品質管理の効率化、デジタルサイネージを利用した社内啓蒙活動が挙げられます。また、 訓練受講後にプロジェクトチームを編成し現場の声を可視化、VBAプログラム勉強会、過去トラブル等を含めた品質データベース構築を継続・実践しています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

（受講者１）
　今回の訓練でDX導入から推進のプロセス、有用なスキル・ツールを知ることができ、非常に有意義でした。業務に活かすための準備につながったと思います。
　今後は、訓練で学んだ内容をもとに、社員のDXリテラシー向上、教育体制の整備、業務のボトルネック分析、解決手段の検討・実行に取り組んでいきたいです。

（受講者２）
　DXの全体像を理解することができました。特にDX推進における施策内容と注意事項の理解が進みました。今回学んだことは、 DX推進の施策、計画立案、進捗管理及び人材育成計画の業務を行う際に活かされています。
　今後は社員のDXリテラシー向上に向けた環境整備、プログラム技術力向上、人材育成を含めた改善改革を計画的に遂行していきたいです。

訓練風景

3．未来工業株式会社 山形工場　様

所在地　　山形県寒河江市
従業員数　山形工場31名
事業内容　電設資材・給排水設備・OAフロアの製造及び販売

常に考える
ものづくりの中で
持続的な社会づくりを

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・日々のルーティンワークに追われ業務改善や新しい取組ができない。
・RPAを活用してルーティンワークを減らしたい。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

・受講後半年で、ルーティンワークに充てる時間が約400時間削減された。
・他の工場やグループ企業への水平展開を進めている。

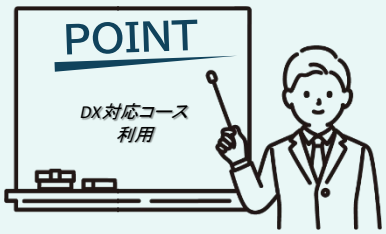
RPAを活用し会社全体に業務改善の機運を高める！

提案内容

・事業所全体においてRPAの理解を深め、業務改善の機運を高めることを目標とした。
・RPAの担当従業員と担当外従業員とが混在して受講することから、デジタルの有効性が伝わる内容を推奨し、身近で具体的な事例や取り組みやすい演習を多く取り入れるカリキュラムを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「055　RPAを活用した業務効率化・コスト削減」
実施時期 ： 令和５年４月
受講者数 ： 10人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

日々のルーティンワークに時間を取られ、既存業務の改善や新しい取組を行えない状況であったところに、ポリテクセンター山形から生産性向上支援訓練の案内をいただきました。当社他事業所でRPAを活用し始めていると聞いていたこともあり、利用を決めました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

受講者が事務職と製造職の混在する状況でしたが、打ち合わせを通して、当事業所の要望をお伝えし、カリキュラムを作成していただきました。受講者のITリテラシーに合わせた訓練となり、受講者からも「とても有意義だった」との感想を得ることができました。RPAの活用を進める土壌が整ったと感じています。
今後もRPAの活用を進めると共に、人材育成を目的とした訓練の利用を積極的に進めていこうと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

日々のルーティンワークに忙殺される日々を送っていました。そんな中、この訓練に参加させていただきました。
訓練では、講師が具体的な活用方法を実例を交えながら説明してくださいました。受講中は日々の業務につながるアイデアがたくさん思い浮かんできました。とても有意義な時間を過ごすことができました。受講後は、習得した知識を活かしてルーティンワークの洗い出しを行いました。今まで人手で行っていた業務を自動化することができ、４月から９月までで約400時間の業務削減をすることができました。さらに、他の工場やグループ企業への水平展開も進めています。今後は、ルーティンワークの負荷を軽減することで、考える時間や判断する時間を増やしていきたいと思っています。

管理課課長　青木 様

管理課チーフ　森谷 様

4．株式会社ビッドシステム　様

所在地　　群馬県伊勢崎市
従業員数　10名
事業内容　コンピュータソフトウェアの開発及び販売

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・社員には「顧客にとってのDXとは何か」を把握できる目線を持ってほしい。
・一人ひとりが意識改革を行い、仕事の幅を広げるような訓練を受講させたい。

様々な視点でDXを考える！

生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

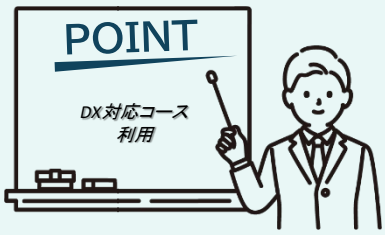
・DXを様々な視点で捉えることで「顧客にとってのDXとは何か」という具体的なイメージを持てたので、要望に応えるだけでなく、積極的に提案していく。

提案内容

・前半は「DXの推進」の訓練で共通理解を図り、後半は「DX人材育成の進め方」の訓練で実践的な演習中心のカリキュラムを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「119　DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」
　　「126　DX人材育成の進め方」
実施時期 ： 令和５年９～11月
受講者数 ： 各９人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

生産性向上は非常に重要なテーマだと捉えており、社内だけで解決できないことは外部の研修を利用することが一番だと思い、適当な研修を探していたところ、ポリテクセンター群馬の生産性向上支援訓練を知りました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

今年度、DXをテーマに選んだのは、ソフト開発の会社としてDXを様々な視点で捉えた訓練を行いたかったからです。
訓練を利用することで「顧客にとってのDXとは何か？」「顧客が関わっているユーザーにとってのDXとは何か？」が具体的にイメージできてきました。訓練を重ねて受講することで、社員から「自分の仕事が整理できてきた、何がポイントか見えてきた」との声が聞こえており、これからも継続して生産性向上支援訓練を活用していきたいと思います。

代表取締役社長　谷 様

受講者の声

Q.感想を教えてください。

今回の訓練テーマであるDXについて、最初は敷居が高く感じていましたが、講師の話を聞いてみると、自分達が既に以前から取り組んでいるWeb上の業務管理等もDXの一つだとわかり、DXが身近なものに感じてきました。また、訓練の中で講師から他社のDXの取組事例等を紹介してもらいとても参考になりました。
今までは顧客の要望に応えるだけでしたが、DXを意識すれば、もっと役に立つものがたくさんあると思うので、これからはもっと発展して提案等ができるような気がします。普段はあまり社内で討論することがないため、演習の中で他の社員達の意見を聞くことができ、新しい発見や考え方を聞けて情報を共有できたのはとても学びになりました。

訓練風景

5．フォルム株式会社　様

所在地　　神奈川県横浜市
従業員数　本社37名
事業内容　自動車部品の製造

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・以前、ITベンダーと取引した際、意思疎通がうまくいかなかった。
・ベンダーとコミュニケーションが取れるように知識を身に付けたい。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

プロジェクトマネジメントを学び
ベンダーマネジメントを強化する！

訓練後の成果

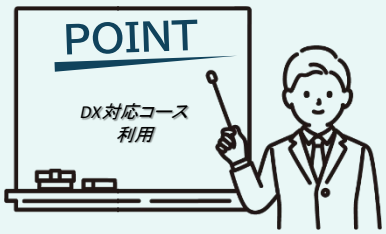
・ベンダーに限らず、社内のやり取りにも活用している。
・受講したことにより従業員の仕事の進め方がよい方向に変わってきている。

提案内容

・ベンダーとのやり取りに関するノウハウ、DXに関する知識を身に付けたいという要望から「ベンダーマネジメント力の向上」のコースを設定し、ベンダーマネジメントの前段階であるプロジェクトマネジメント手法に関する内容を取り入れたカリキュラムとした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「118　ベンダーマネジメント力の向上」
実施時期 ：令和５年４月
受講者数 ：10人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社は自動車部品の設計・製作を行っています。以前、製造ラインのDX推進のため、ITベンダーとの取引をした際、当社との間に認識の違いがあることや、当社のプロジェクトマネジメントに対する知識が不足していたことが原因で、意思疎通がうまくいかないケースがありました。この課題を解決するため、まずは従業員に対し、基本的な考え方を身に付けさせたいと思い、生産性向上支援訓練「ベンダーマネジメント力の向上」の利用を決めました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

訓練ではまずはじめに「カップラーメンは何分でできるか」という馴染みやすいテーマで演習を行った後、講師にプロジェクトの進め方の基本的な考え方をわかりやすく説明いただき、理解を深めることができました。後半はDXの視点からベンダーマネジメント手法を学びました。講義やグループワークを通し、今後、ベンダーとの取引を行う新プロジェクトが発足された際、すぐに活用できる知識・ノウハウを知ることができました。
当社ではDXプロジェクト推進チームがあり、DX人材の育成に力を入れています。例年、DX・IT分野も含め、生産性向上支援訓練を利用していますが、訓練を通じて当社従業員の学び方や、普段の仕事の進め方が少しずつよくなっていると感じています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

ベンダーマネジメントの基本的な考えを学ぶことができました。また、講師に丁寧にわかりやすく説明していただいたので、理解を深めることができた訓練でした。
今回学んだことは、ベンダーなどの外注業者だけでなく、部署内でのやり取りにも活用できる内容であると感じています。当社では同じ部署でも別拠点にいる場合があり、コミュニケーション不足による齟齬が生じたケースが過去にありました。訓練では、進捗状況確認の重要性やチームでプロジェクトを進める際のコツを学ぶことができ、通常業務を円滑に進めるヒントとなりました。
今回学んだことを活かし、新プロジェクトを進めていく際は、他部署を含めたマネジメント管理を行っていきたいと考えています。

管理部部長　星 様

営業開発部門　技術グループ
須藤 様

6．株式会社百十四システムサービス 様

株式会社百十四システムサービス 本社入居ビル外観

所在地　香川県高松市
従業員数　69名
事業内容　ソフトウェア開発に関する受託業務、提案型ICTソリューションの提供、代金回収サービス業務、百十四銀行のシステム開発支援

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・顧客に対してDX推進を担当している社員とその他社員のDXの知識やDXリテラシーの差が大きい。
・一般社員に対するDX教育が必要だと感じている。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

DXの知識やDXリテラシーの社内格差を解消する！

訓練後の成果

・DXの導入には、現状を深掘りして問題点を洗い出すことが重要だと理解できた。
・当社に必要なのは攻めのDXなのだと理解できた。

提案内容

・社内のDX推進をしようとしており、体制、進め方、導入事例等について勉強したいという要望から、IT業界の「DXの進め方」を実例を中心に基礎から具体的導入、運用へと段階的に学べるカリキュラムにカスタマイズした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「117　DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入」
　　「119　DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」
実施時期 ： 令和５年９月
受講者数 ： 延べ17人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社は、百十四銀行グループの一員として、お客様にICTソリューションを30年以上にわたり提供しているシステムサービス会社です。
業務でお客様のDX推進を担当している社員とその他社員とのDXの知識やDXリテラシーの違いが、会社を挙げてDXを推進するに際しての課題でした。
一般社員に対して、DXの知識の向上に向けたトレーニングや教育プログラムの提供が必要だと感じたため、数年前から、その時々の課題に応じた生産性向上支援訓練を利用していたポリテクセンター香川に相談し、今回はDX対応コースを利用することとなりました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

訓練を利用したことで、デジタル化・IT化からさらに踏み込んだ「攻めのDX」の重要性について学ぶことができました。
また、サンプル事例をもとに問題を分析し、解決策の提示までをグループワークで行ったことで、具体的なDX推進のイメージを掴むことができました。
現在は、現状業務の課題を「攻めのDX」という観点で見直すことから始めています。課題の抽出・解決策の検討や全体最適を実現できるツールの選定等、訓練で学んだ考え方を活かしています。
DX人材の裾野拡充により、社内DXをさらに加速させると共に、お客様にはより有意義なDX提案ができるよう一層取組を強化していこうと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

訓練を受講してDXの最新動向を知ることができました。お客様視点に立って、本質的な課題やニーズを発見し、それに対処する思考力が今後より一層重要になると感じました。
また、社内でグループワークをする機会が少なかったので、貴重な経験ができたと感じています。
DXリテラシーの向上を通じて、システム開発に留まらず、お客様の業務プロセス改善提案を行えるDX人材へと成長していくために、引き続き努力を続けていきたいと思います。

訓練風景

7．FRT株式会社　様

所在地　　沖縄県浦添市
従業員数　212名
事業内容　インターネットデータセンター事業、コンタクトセンター事業

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・DXを推進したいが、社内研修やOJTでは限界を感じている。
・DXやITを活用して各業務の効率化を推進したい。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

・社員一人ひとりがDXやIT化に向けて意識を持って取り組むようになった。
・人的ミスが減り、ITツールを活用した作業手順が整理できた。

DXやITを活用して業務効率化を図る！

提案内容

・DXを推進するにあたり、社内研修やOJTでは、ノウハウや場所確保の課題があったため、ポリテクセンター沖縄で計画していたオープンコースを利用勧奨した。

受講した訓練：オープンコース

コース名 ：「020　クラウドを活用したシステム導入」「056　ITツールを活用した業務改善」
実施時期 ：令和５年６～７月
受講者数 ：延べ４人（コース全体では23人）

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

DXやITを活用して各業務の効率化を進めるにあたり、社内研修やOJTで階層別の研修を実施するも、限界を感じていました。そういった中、ポリテクセンター沖縄から生産性向上支援訓練オープンコースの案内があり、利用を決めました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

訓練を利用した結果、人的ミスの削減やITツールを活用して作業手順の整理ができました。また、将来の労働者不足問題の解決に向けてのヒントを見つけることができました。
さらに、他社の方々と意見交換を通じ、DXやITを活用する等、業務の効率化を推進することを社員一人ひとりが意識するようになりました。
今後は、訓練で得た内容を部門ごとに共有し、生産性の向上につなげていきたいと考えています。

研修担当者
永山 様

受講者の声

Q.感想を教えてください。

私が所属している営業サポートグループでは、表計算ソフトやワープロソフトを使って書類作成していますが、表計算ソフトやRPA等のITツールを活用して業務の簡素化や自動化を図ることで、できる範囲内での紙媒体からの脱却を検討していました。
「ITツールを活用した業務改善」のコースでは、グループワークを通じて、他社の方々もそれぞれ同じような事務簡素化の課題で悩んでいることが確認でき、また、共感できる部分について意見交換することができました。
今後は、ITツールを活用することで、業務の重複部分を回避し、業務の簡素化をすることで、業務の負担軽減を推進することを部署内で活かしていきたいです。

受講者 翁長 様

8．オイレス西日本販売株式会社　様

所在地　　大阪府大阪市
従業員数　39名
事業内容　各種ベアリング、伝導機器・装置の販売等

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・SDGsについて、どのように取り組めばよいのかわからない。
・グループ会社全体で取り組むので自社もできることから始めたい。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

会社を挙げてSDGsの取組を始める！

訓練後の成果

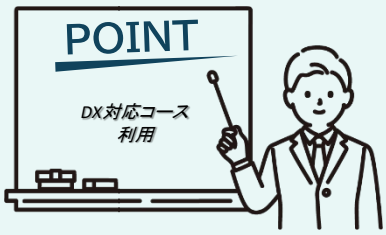
・「SDGsは大企業以外には関係ない」と思っていたが、自社でも取り組めることがあるとわかった。

提案内容

・グループ会社のSDGsの取組について事業主からヒアリングを行い、実施機関との打ち合わせ前までに方針を明確化することを提案した。
・SDGsを意識したバリューチェーン構築の２つの方向性を踏まえた取組事例を参考に、利用事業主に適したカリキュラムを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「121　ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合」
実施時期 ： 令和５年８月
受講者数 ： 16人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社は1960年の創業以来、生産財全般を取り扱い、各種ベアリングをはじめ、軸受・オイルシールや各種機器等の販売を行っています。
以前より社員を積極的にポリテクセンター関西のオープンコースに参加させていましたが、グループ会社全体でSDGsに取り組んでいることから、当社でもできることから取り組み始めたいと考えていました。
その時期にポリテクセンター関西からオーダーコースの案内があり、利用を決めました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

当社の課題や要望等の相談ができること、また、１度で多くの社員を受講させることができるのが、オーダーコースのメリットだと思います。
当日は主任以上の役職及び営業担当社員16名を受講させ、グループワークで積極的に意見を出し合っていたことが印象に残りました。
最近の採用試験ではSDGsの取組について質問する受験者がいると聞いたことがあるので、今後は当社も自信を持って答えられるようになれたらと思います。
また、本来の業務においても受講した社員が習得したことをアウトプットし、自信を持って顧客に合った提案をしてほしいと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

はじめはSDGsというと「メーカーが取り組む社会貢献というイメージ」が強かったのですが、訓練を通して、商社である当社も取り組めるものだと感じました。
訓練では概要説明だけでなく全員参加型のグループワークもあり、講師が紹介した事例を踏まえて、他部署の社員と積極的にコミュニケーションをとり、アイデアを出し合うことができました。
訓練終了後は社内で取り組める目標について話し合い、当社のホームページに新たにSDGsの項目を追加しました。
SDGsが掲げる目標は全て大切なことなので、今後は個人としても身近なことから取り組みたいと考えています。

訓練風景

9．ホシデン九州株式会社　様

所在地　　福岡県鞍手郡
従業員数　129名
事業内容　小型マイクロホンの開発及び製造

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・社内の年齢構成的に中間層が少なく、若年層と熟年層の間のコミュニケーションが課題。
・熟年層のコミュニケーションスキルを向上させたい。

熟年層における若年層への指導力や協業による社員総合力等をアップする！

生産性向上支援訓練
ミドルシニアコース

訓練後の成果

・若年層への技術指導や報連相時の対話に効果が出ている。
・現場で起こりがちな事例をもとに教育方法やコミュニケーションの進め方を学ぶことができた。

提案内容

・生産性向上への取組のキックオフとして幅広い社員に向けたコース、管理者層や熟年層に向けた「組織マネジメント」「生涯キャリア形成」に関するコース、PCスキル向上を目的とするコースを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「048　ものづくりの仕事のしくみと生産性向上」
「068　後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割」
「107　表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化」　ほか５コース
実施時期：令和５年６～12月
受講者数：延べ91人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社では、一昨年から「今後労働人口の減少が見込まれることから、人的資本のスキルアップを目指す」方針を打ち出しています。元々、ポリテクセンター福岡の能力開発セミナーを毎年利用していたところですが、組織力やITスキル向上等に役立つ生産性向上支援訓練についても計画的な利用を開始しました。
当社では、社員の年齢構成が若年層と熟年層に分かれ、中間層が少ない構成になっており、社内コミュニケーションが課題となっていました。そこで、管理者層や熟年層のコミュニケーションスキルを向上させ、若年層への指導、技術評価による戦力化、協業による社員総合力等をアップしたいと考え、組織マネジメントに関するコースの利用を決めました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

若年層への技術指導や報連相時の対話を含め、効果が出てきており、今後も継続していく予定です。
訓練は、当社の事業所を会場に実施ができて、講師を派遣していただけるので大変助かっています。毎回、訓練前に訓練実施機関（講師）と当社の要望や受講社員の特徴についての詳細な事前打ち合わせを行うことができるので、訓練の効果を押し上げていると感じます。
今後は若手のモチベーションアップのため、ものづくりの喜びや達成感等のマインドを育成するような、新たなコースを期待しています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

ちょうど新入社員が入り、育成を担当していますが、相当歳が離れていることもあり、教育方法やコミュニケーションの進め方に不安があったので、今回の訓練がよいアドバイスになりました。
また、自分自身の振り返りや見直しにもよい機会となりました。
取り上げられた事例が、実際に現場で起こりがちな内容だったので理解しやすく、グループでの話し合いや発表は、色々自身に気づきが出て面白いし、ためになりました。
今後の後輩社員との関係づくりや育成等に訓練で学んだことを活かしていきたいです。

訓練風景

10. 丸茂工業株式会社　様

所在地　　愛知県常滑市
従業員数　175名
事業内容　輸送用機械器具製造（熱間鍛造品全般）

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・営業活動が個々の経験に依存している。
・営業手法を学ばせることにより、普段の営業活動に刺激を与えたい。

営業手法を学び、営業力を向上する！

生産性向上支援訓練

訓練後の成果

・実際の職務において活用できる新たなスキルを学べた。
・知識を身に付けたことで、仕事に対する自信が深まった。

提案内容

・講師の実体験に基づく理論を展開することにより、営業実務に就いている受講者に新たな気づきを与え、日頃の営業スタイルにプラスとなるような訓練を提案した。
・営業を展開する上で有効な３種類のシートの活用を提示し、「個人能力の依存」から「会社の仕組みに対応」に変える内容へカリキュラムをカスタマイズした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「049　提案型営業手法」
実施時期 ： 令和５年６月
受講者数 ： ６人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社は昭和26年創業、今年で設立72年を迎えた輸送用機械用の鍛造部品メーカーです。
少子化の影響で、新卒採用が年々厳しくなっており、人材の確保・定着が急務であることから、経営方針に「人材育成の器を作る」を掲げ、「将来に向けて会社を存続させるため、人材を雇用し育てる・人材育成の仕組みを作る」ことを重要課題の一つとしています。
生産性向上支援訓練のオーダーコースを利用する以前は、社外教育として外部講習を利用し、社内教育は専ら所属部署でのOJTが主体で、社内での階層別やテーマ別の集合研修の実施は不十分な状況でした。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

専門的な知見を有する講師の方々が、各受講者のレベルに合わせてカリキュラムをカスタマイズした上で、演習を交えながら丁寧に指導してもらえることから、従業員の理解も確かなようで、加えて、グループワークでのディスカッションなどを通じて、新たな気づきが得られているようです。
訓練で得られた内容はそれぞれの従業員が実務で実践しており、これまでの個々の経験等に基づく知識に訓練で学んだ知識が加わることで、より知見が増し、仕事の自信にもつながっているようです。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

訓練を受講して、自社の強みを整理し、営業先のニーズを探り、営業先担当者のプロファイリングを踏まえ効果的な提案する手法を、ディスカッション形式のグループワークにより習得することができました。さらに、作成した３つのシートを用いた提案営業をロールプレイングで実践的に体験することにより、訓練内容が実際に身に付いたと感じています。
訓練受講後は、自分自身の営業スタイルにも厚みが増し、相手に応じた営業戦略を立てた上でのお客様への提案（訪問、電話、メール）や社内の報告資料に各シートを活用した業務の効率化や定量化にも役立てています。
今後も積極的に訓練へ参加することで、自身及び社内の課題改善につなげていきたいと考えています。

訓練風景

11. 日本光研島根株式会社　様

所在地　　島根県江津市
従業員数　23名
事業内容　パール顔料製造

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・表計算ソフトで行っている業務の一部をデータベースソフトに切り替えて作業を効率化したい。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

・データベースソフトを活用することで、ケアレスミス防止等の課題解決に役立つとわかった。

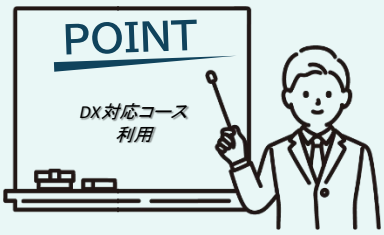
従業員のPCスキルを向上させ、データベースソフトを活用できるようにする。

提案内容

・「データベースを活用したデータ処理（応用編）」のコースを提案し、通常業務の負担軽減のため、４時間×５日で訓練を提案した。
・事業主の要望に沿って、データベースソフトの仕組みや操作方法等の基礎編の内容を取り入れた。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「109　データベースを活用したデータ処理（応用編）」
実施時期 ： 令和５年９月
受講者数 ： ６人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社は、親会社からの完全受注でパール顔料を製造する工場です。独立した会社として新設されましたので、創業からまだ５年という若い会社です。そのため、各担当者はハード面ソフト面全てにおいて基盤を整備するところから業務を始めています。
担当者ごとに作成した様々な管理表は、各々がわかりやすいように設計しており、単体で見た際はよいのですが、それらを合わせてデータ加工をする際に、使いづらさを感じることがあります。
そんな中、ポリテクセンター島根にお声がけをいただき、生産性向上支援訓練を利用しました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

さすがオーダーメイドと言うだけあり、当社従業員のレベルに沿ったカリキュラムとなりました。
しっかり基礎を学んだ上で実践に近い応用を履修したため、従業員の満足度が非常に高く、深い学びとなったようです。
今後も、それぞれが習得したことを業務にどのように活用していくのかフォローしつつ、オーダーメイドで当社の実状に合った訓練を、ポリテクセンター島根にご支援いただきながら利用していきたいと思っています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

私が担う業務は、製品・材料の入出庫、出荷及び倉庫内の管理です。表計算ソフトを駆使しながら保管場所の可視化や在庫管理の簡素化等、自分なりに工夫していました。
しかし、複数のデータを複数のファイルで取り扱うことによるミスや入力忘れ等が、自身の課題となっており、何かよいツール・方法がないかと模索していた際、総務部から今回の訓練を受講推奨されました。
講師は私が抱えている課題を真摯に受け止め、親切丁寧にご指導いただきました。訓練が進んでいくにつれ、課題が解決できるという手応えが強まっていきました。
今後は、複数のファイルやデータを一本化し、誰もが簡単に操作でき業務効率向上につながる在庫管理システムの構築に取り組んでいきたいと思います。

業務風景

12. 株式会社第一メカテック　様

所在地　　埼玉県川口市
従業員数　159名
事業内容　サービス業

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・IoT、AI等の技術革新に対応できる技術者を育成したい。
・多岐にわたる業務をDXの推進・導入によって効率化したい。

生産性向上支援訓練
DX対応コース

DX推進の中核的な人材を育成する！

訓練後の成果

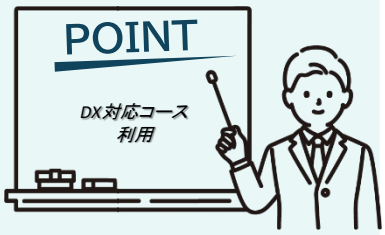
・訓練受講者は「技術者」としての意識が高まり、表情が変わってきた。
・RPAが職場のどこに適用できるかを見極め実践できるようになった。

提案内容

・若手社員が社内におけるDX推進に関わりながら、将来的に社内の基幹人材として活躍ができるようになることを目標とし、DX対応コースに加え、組織マネジメントに関するコースを提案した。
・自社のDXの課題を検討する上で、事業の全体像を確認するカリキュラムとした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「058　現場社員のための組織行動力向上」「093　IT新技術による業務改善」
　　「096　RPA活用」「119　DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」
実施時期 ： 令和５年４月
受講者数 ： 各10人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

当社は、射出成形機のメンテナンス、プラスチック表面処理及び加飾、溶接システムの製造及び販売、FA自動化装置等のシステム提案等を行っています。
幅広い事業展開をするためにIoT・AI等の技術革新に十分対応できる技術者を育成することや、多岐にわたる業務をDXの推進・導入によって効率化を図ることが、喫緊の課題でした。そこで、新入社員を含めた若手社員を対象として、毎年実施している研修に、ポリテクセンター埼玉から案内のあったIoT・AIに係る訓練を取り入れたいと考え、令和３年度から毎年利用しています。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

顧客への提案に必要なことは、知識に基づいたアイデアです。会社として、社員が日々学び続けることができる環境づくりをし、その中で成長を遂げてほしいと考えています。訓練を受講させた社員は、配属になった部署で、それぞれ「技術者」としての意識づけがされており、年々表情が変わってきているように感じています。
具体的には、RPAを活用した業務改善について、事業部ごとに取り組んでいます。若手社員からベテラン層まで、全社を挙げてDXを推進しながら、生産性の向上を図るためにも、引き続き訓練を受講していきたいと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

（受講者１）
「RPA活用」の訓練コースでは、実際にRPAが引用するシナリオを知り、具体的な使い方を学びました。その結果、職場のどこにRPAを適用できるかを見極め実践できるようになりました。また、細かい業務を少しずつ減らすことで効率化を図っていけると知ったため、今後は、事業部ごとにRPA活用に取り組んでいきたいと思います。

（受講者２）
「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」の訓練コースを受講したことで、DX推進とは、生産性向上のための課題解決をしていくことであると理解できました。自分のような若手社員から積極的に声をあげ、DXを導入する等して業務の負担が減るような取組を検討し、会社に貢献できればいいなと思っています。

設備のメンテナンスをする風景
西野 様

13. 株式会社中温　様

所在地　　愛媛県松山市
従業員数　192名
事業内容　農作物加工、瓶詰・缶詰・袋詰等製造

支援の概要

把握した課題と目標・要望

・社員の仕事のスピードや生産性を向上させたい。
・どの社員にもバランスよく学びの機会を与えたい。

社員に投資して生産性アップを図る！

生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

・部門間の業務連携が強化され、残業時間の大幅な削減につながった。
・社員が「会社が自分に期待している」ことに気づき始め、職場全体の士気が向上した。

提案内容

・旧態以前とした営業スタイルに危機感を持っていたため、オンラインプレゼンテーション技術のコースを提案し、演習で実在の顧客（食品スーパーの鮮魚バイヤーほか）をケーススタディーとして実践できるカリキュラムを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名 ：「038　事故をなくす安全衛生活動」「104ピボットテーブルを活用したデータ分析」「124　オンラインプレゼンテーション技術」
実施時期 ：令和５年７～８月
受講者数 ：延べ32人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

2018年６月の法改正で、食品メーカーに対し、国際規格であるHACCPの認証取得が義務化されました。認証を取得するために、作業工程や生産設備に関する対策を行う過程で、社員への投資が一番大切だと実感し、社員にPCを貸与して仕事のスピードや生産性の向上に取り組み始めました。
また、近年は事業拡大に伴う人手不足により、業務効率化を図る必要があったほか、新人を多数採用して、積極的に研修を行うようになりました。そのため、これまで受講機会が少なかった社員にも研修を受講させ、各社員のスキルや研修受講機会のバランスを取る必要性を感じていました。
そのような折、ポリテクセンター愛媛からの提案でオープンコースを利用し、その後、オーダーコースも利用しました。

Q.訓練を利用した効果や受講者の反応を教えてください。

嬉しい変化がありました。「訓練受講者に選出されることは、会社が自分に期待しているからなのだ」と社員が気づき始めたのです。訓練を受講した社員のモチベーションがアップし、他の社員も刺激を受けて、職場全体の士気が向上しています。社員同士でお互いを高め合う、よいサイクルが生まれていると思います。
今後は、全社員のレベルアップに向けて研修制度の拡充や公的資格の取得制度、人事評価制度の見直しに取り組んでいきます。その中で、ITスキルの向上やリーダー人材の育成に向けて、訓練をうまく活用していきたいです。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

私は生産管理部に所属しています。生産計画に基づき効率的かつスムーズに商品を納品できるよう、営業部門・生産部門との連携強化に努めていますが、営業が保有している情報を適切に共有し、生産効率を考慮した計画を立てることが課題でした。
訓練では、営業部門や製造部門の社員と共にフローチャートを書いたり、カードゲームをしたりしました。その過程で、それぞれの部門ごとに業務上の優先順位が異なることに気づきました。営業と製造現場、双方の視点を学べたほか、グループディスカッションにより部門間の意思疎通が図れたこともよかったです。
受講後は、各部門間のコミュニケーションが円滑になり、業務連携が強化されたことで、残業時間の大幅な削減につながりました。
今後は会社を背負う将来のリーダーとして活躍できるよう、受講経験を活かしながら人材育成にも携わっていきたいです。

受講者の皆様

生産性向上人材育成支援センター設置施設一覧

都道府県	施設名（所在地）	電話番号
北海道	ポリテクセンター北海道（札幌市西区）	011-640-8822
	ポリテクセンター旭川（旭川市）	0166-48-2412
	ポリテクセンター釧路（釧路市）	0154-57-8114
	ポリテクセンター函館（函館市）	0138-52-0323
	北海道ポリテクカレッジ（小樽市）	0134-62-3553
青森	ポリテクセンター青森（青森市）	017-777-1234
	ポリテクカレッジ青森（五所川原市）	0173-37-3201
岩手	ポリテクセンター岩手（花巻市）	0198-23-5354
宮城	ポリテクセンター宮城（多賀城市）	022-362-2253
	東北ポリテクカレッジ（栗原市）	0228-22-2082
秋田	ポリテクセンター秋田（潟上市）	018-873-3177
	ポリテクカレッジ秋田（大館市）	0186-42-5700
山形	ポリテクセンター山形（山形市）	023-686-2225
福島	ポリテクセンター福島（福島市）	024-534-3637
	ポリテクセンターいわき（いわき市）	0246-26-1231
	ポリテクセンター会津（会津若松市）	0242-26-0515
茨城	ポリテクセンター茨城（常総市）	0297-22-8800
	〃　水戸事務所（水戸市）	029-221-1188
栃木	ポリテクセンター栃木（宇都宮市）	028-622-9497
	関東ポリテクカレッジ（小山市）	0285-31-1711
群馬	ポリテクセンター群馬（高崎市）	027-347-3333
埼玉	ポリテクセンター埼玉（さいたま市緑区）	048-882-4079
千葉	ポリテクセンター千葉（千葉市稲毛区）	043-422-2224
	ポリテクセンター君津（君津市）	0439-52-0219
	ポリテクカレッジ千葉（千葉市中央区）	043-242-4166
	ポリテクカレッジ千葉 成田校（成田市）	0476-22-4351
	高度ポリテクセンター（千葉市美浜区）	043-296-2580
東京	東京支部（墨田区）	03-5638-2280
神奈川	ポリテクセンター関東（横浜市旭区）	045-391-2818
	ポリテクカレッジ横浜港（横浜市中区）	045-621-5999
新潟	ポリテクセンター新潟（長岡市）	0258-33-2420
	ポリテクカレッジ新潟（新発田市）	0254-23-2168
富山	ポリテクセンター富山（高岡市）	0766-22-2738
	北陸ポリテクカレッジ（魚津市）	0765-24-5552
石川	ポリテクセンター石川（金沢市）	076-267-0801
	ポリテクカレッジ石川（鳳珠郡穴水町）	0768-52-1323
福井	ポリテクセンター福井（越前市）	0778-23-1010
山梨	ポリテクセンター山梨（甲府市）	055-241-3218
長野	ポリテクセンター長野（長野市）	026-243-1001
	ポリテクセンター松本（松本市）	0263-58-2905
岐阜	ポリテクセンター岐阜（土岐市）	0572-54-3161
	〃　岐阜事務所（岐阜市）	058-265-5801
	東海ポリテクカレッジ（揖斐郡大野町）	0585-34-3600
静岡	ポリテクセンター静岡（静岡市駿河区）	054-285-7185
	ポリテクカレッジ浜松（浜松市中央区）	053-441-4444

都道府県	施設名（所在地）	電話番号
愛知	ポリテクセンター中部（小牧市）	0568-79-0511
	〃　名古屋事務所（名古屋市中区）	052-221-8754
	〃　名古屋港湾労働分所（名古屋市港区）	052-381-2775
三重	ポリテクセンター三重（四日市市）	059-321-3171
	ポリテクセンター伊勢（伊勢市）	0596-37-3121
滋賀	ポリテクセンター滋賀（大津市）	077-537-1164
	ポリテクカレッジ滋賀（近江八幡市）	0748-31-2250
京都	ポリテクセンター京都（長岡京市）	075-951-7391
	ポリテクカレッジ京都（舞鶴市）	0773-75-4340
大阪	ポリテクセンター関西（摂津市）	06-6383-0949
	近畿ポリテクカレッジ（岸和田市）	072-489-2111
兵庫	ポリテクセンター兵庫（尼崎市）	06-6431-7276
	ポリテクセンター加古川（加古川市）	079-431-2516
	ポリテクカレッジ神戸港（神戸市中央区）	078-303-7325
奈良	ポリテクセンター奈良（橿原市）	0744-22-5224
和歌山	ポリテクセンター和歌山（和歌山市）	073-461-1531
鳥取	ポリテクセンター鳥取（鳥取市）	0857-52-8781
	ポリテクセンター米子（米子市）	0859-27-0111
島根	ポリテクセンター島根（松江市）	0852-31-2800
	ポリテクカレッジ島根（江津市）	0855-53-4567
岡山	ポリテクセンター岡山（岡山市北区）	086-241-0067
	中国ポリテクカレッジ（倉敷市）	086-526-0321
広島	ポリテクセンター広島（広島市中区）	082-245-0267
	ポリテクカレッジ福山（福山市）	0849-23-6391
山口	ポリテクセンター山口（山口市）	083-922-1948
徳島	ポリテクセンター徳島（徳島市）	088-654-5101
香川	ポリテクセンター香川（高松市）	087-867-6855
	四国ポリテクカレッジ（丸亀市）	0877-24-6290
愛媛	ポリテクセンター愛媛（松山市）	089-972-0334
高知	ポリテクセンター高知（高知市）	088-833-1085
	ポリテクカレッジ高知（香南市）	0887-56-4111
福岡	ポリテクセンター福岡（北九州市八幡西区）	093-641-4906
	〃　福岡事務所（福岡市中央区）	092-738-8875
	ポリテクセンター飯塚（飯塚市）	0948-22-4018
	九州ポリテクカレッジ（北九州市小倉南区）	093-963-0125
佐賀	ポリテクセンター佐賀（佐賀市）	0952-26-9497
長崎	ポリテクセンター長崎（諫早市）	0957-22-5471
	ポリテクセンター佐世保（佐世保市）	0956-58-3118
熊本	ポリテクセンター熊本（合志市）	096-242-0391
	ポリテクセンター荒尾（荒尾市）	0968-62-0179
大分	ポリテクセンター大分（大分市）	097-522-2171
宮崎	ポリテクセンター宮崎（宮崎市）	0985-51-1511
	ポリテクセンター延岡（延岡市）	0982-37-0675
鹿児島	ポリテクセンター鹿児島（鹿児島市）	099-254-3752
	ポリテクカレッジ川内（薩摩川内市）	0996-22-2121
沖縄	ポリテクセンター沖縄（中頭郡北谷町）	098-936-1755
	沖縄ポリテクカレッジ（沖縄市）	098-934-6282

実施している訓練メニューは施設により異なります。詳しくは各施設までお問い合わせください。

また、各施設のホームページにおいても事業主支援情報を掲載していますので、あわせてご覧ください。

ポリテクセンター○○

※施設名を入れて検索してください。